報告番号	香大医博甲　第 734 号

様式１０７

学位論文審査の結果の要旨

令和　2年　2月　5日

審査委員	主　査	正木忠		印
	副主査	堀井泰浩		印
	副主査	辻晃仁		印
願出者	専攻	医学専攻	部門	（平成２７年度以前入学者のみ記入）
	学籍番号	16D712	氏名	近藤彰宏
論文題目	Effect of preoperative chemotherapy on distal spread of low rectal cancer located close to the anus			
学位論文の審査結果	合格　・　不合格　（該当するものを○で囲むこと。）			

〔要旨〕

【背景】

直腸癌において腫瘍細胞が粘膜下層以深で肛門側へ進展することは distal spread と呼ばれている。術前治療のない直腸癌の distal margin は 20mm が妥当と考えられている。一方で、術前化学放射線療法が施行された直腸癌の distal margin は 10mm で許容しうると考えられている。しかし、術前化学療法（NAC）後の distal spread の存在や至適な distal margin の設定については報告されていない。

【目的】

NAC を施行した進行下部直腸癌症例における distal spread の頻度と距離を明らかにし、至適な distal margin を明らかにする。

【対象・方法】

2012 年から 2015 年までに NAC 後に手術を施行した進行下部直腸癌 71 例を対象とした。病理組織学的に distal spread の有無を検索し、その距離を各症例ごとに計測した。
また、10mm 以上の distal spread に関連する臨床的な因子を検討した。

【結果】

distal spread は 71 例中 42 例（59.2%）に認められ、distal spread の距離ごとの症例数は、1-9mm：27 例、10-19mm：11 例、20mm 以上：4 例であった。
10mm 以上の distal spread は 15 例(21.1%)に認め、10mm 以上の distal spread に関連する臨床的因子を検討すると、多変量解析では組織型 por,muc（OR=8.86）、CS/MRI の腫瘍縮小効果判定不一致（OR=11.6）が独立した因子であった。

【結論】
NAC後の進行下部直腸癌症例ではdistal spreadを高頻度に認めた。術前化学放射線療法とは異なり、distal marginは10mmでは不十分であり20mmの確保が必要と考えられた。por/mucやCS/MRIの腫瘍縮小効果判定不一致は10mm以上のdistal spreadに関連する因子である。

本研究に関する学位論文審査委員会は令和2年2月4日に行われた。

本研究は術前化学療法が施行された進行下部直腸癌におけるdistal spreadの距離と頻度、および至適なdistal marginについて検討したものであり、術前化学療法施行後のdistal spreadの頻度は高率であり、術前治療に関わらず少なくとも20mmのdistal marginを確保することが求められるということを指摘したものである。本研究の結果に対する十分な考察もなされていた。
本研究で得られた成果は、術前化学療法が施行された進行下部直腸癌の手術時におけるdistal margin設定の一助となる点で意義があり、学術的価値が高い。委員会の合議により、本論文は博士（医学）の学位論文に十分値するものと判定した。

審査においては
1. 組織型によって粘膜下層以深の浸潤形態に違いがあったのか。
2. 実臨床において、術前治療として化学療法が良いか、化学放射線療法が良いか、という点についてはどうか。
3. 肛門側切除線を設定するにあたって、術前画像評価として内視鏡検査とMRI検査とどちらが良いと考えるか。
4. 最終的に結論付けた術前化学療法施行後のdistal margin 20mmは妥当であるのか。
5. 化学療法を施行することでpathological CRが7%得られているにも関わらずdistal spreadが多いというのは、少し理解しにくい点もあるが、どう考えるか。
6. 化学療法を行うことでdistal spreadという病態が増加するのであれば、化学療法よりも化学放射線療法の方が好ましいのではと考えられる点についてはどう考察するか。
7. 内視鏡検査とMRI検査で効果判定を行い、両方とも治療効果が得られていたと判定した症例のdistal spreadはどうであったか。
8. 論文の対象症例の期間中で化学療法のレジメン変更はあったかどうか。

などについて多数の質問が行われた。申請者はいずれにも明確に応答し、医学博士の学位授与に値する十分な見識と能力を有することが認められた。

掲載誌名	Int J Colorectal Dis. 2018 Dec;33(12):1685-1693.		
（公表予定） 掲載年月	2018年　12月	出版社（等）名	Springer

（備考）要旨は，１，５００字以内にまとめてください。